

2014年10月1日

各位

## 積水ハウス株式会社

### 都市再開発「御殿山プロジェクト」と、 再開発プロジェクト Tomihisa Cross の「Tokyoイゴコチ論争」が 「2014年度グッドデザイン賞」を受賞

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部 俊則)は、約28,000㎡の総合的都市開発プロジェクト「御殿山プロジェクト」(※1)と、再開発プロジェクト Tomihisa Cross 「Tokyoイゴコチ論争 オープンディスカッションによる住宅企画」(※2)の2点で、「2014年度グッドデザイン賞」(※3) (主催:公益財団法人日本デザイン振興会、2014年10月1日(水)発表)を受賞しました。今般の受賞についての評価ポイントは以下の通りです。

#### 【都市再開発「御殿山プロジェクト」について】

武蔵野台地のエッジ部分の斜面地に地勢を素直に表現したランドスケープである。大規模開発においては通常建築計画が優先され、ともするとランドスケープはこの次になることも多々あるが、ここでは周辺グリーンとネットワークを形成する丁寧な庭園デザインがなされている。特に急峻な法面を覆う擁壁には段をつけて、緑と自然石でコンクリート面を覆い人工的な表現は排除され、全体風景の中に溶け込ませたデザインとして昇華している。

#### 【再開発プロジェクト Tomihisa Cross 「Tokyoイゴコチ論争 オープンディスカッションによる住宅企画」について】

住宅づくりにおける住民の巻き込みは年々、進化している。その中でも、このプロジェクトは取り組みの質と量で卓逸している。4万人の参加者から10万の声を集め、専門家も交えて、居心地の良さを実現する1000のアイデアとしてまとめ、空間に反映した。着工タイミングを計算し細かくゾーニングすることで、住まい手からの声をできるだけ構造や空間デザインに反映するプロセスデザインが優れており、より多くの住宅メーカーによる採用を期待したい。1000のアイデアの中には、建てる時だけでなく、住民によって継続的な取り組みが必要なものも含まれており、住み始めた後の住民間のコミュニケーションの礎になっている点も素晴らしい。「提供されるのではなく、自分たちでつくるもの」、そんな新しい住宅の作り方が見えてくる。



都市再開発 「御殿山プロジェクト」



再開発プロジェクト Tomihisa Cross

「Tokyoイゴコチ論争」



GOOD DESIGN  
AWARD 2014

積水ハウスは「SLOW&SMART」をブランドビジョンとし、先進の技術で快適で豊かな暮らしを実現するための取り組みを推進しています。都市開発においても、住まい手、使い手、訪れる人にとって、満足感のある空間と環境を創造し、豊かな都市生活の実現に貢献してまいります。

(※1) 「御殿山プロジェクト」の受賞は、積水ハウス株式会社・株式会社日建設計・大成建設株式会社の共同受賞です。

(※2) Tomihisa Cross 「Tokyoイゴコチ論争」の受賞は、野村不動産株式会社・三井不動産レジデンシャル株式会社・積水ハウス株式会社・阪急不動産株式会社の共同受賞です。

(※3) 「グッドデザイン賞」は、1957年に通商産業省(現経済産業省)によって創立された「グッドデザイン商品選定制度(通称Gマーク制度)」を継承し、1998年より公益財団法人日本デザイン振興会の主催事業として運営される、日本で唯一の総合的なデザイン評価制度です。

## ■各受賞内容について

### 【都市再開発「御殿山プロジェクト」】

(所在地:東京都品川区 応募カテゴリー:都市づくり、地域づくり、コミュニティづくり)

「御殿山プロジェクト」は、約28,000㎡にわたる品川御殿山の広大な敷地に、2棟のオフィスゾーンと2棟の住宅ゾーン、そして公園ゾーンからなる総合的都市開発プロジェクトです。

「人」「街」「緑」のつながりより創造される「快適性」に重点を置き、それにより享受できる「人間性の豊かさ」をコンセプトの第一と考えています。

スケール感のみ主張する大規模開発ではなく、自然豊かな「御殿山」の原風景の再生、表情豊かなヒューマンスケールの親しみやすい街並みの創造などを基本としています。また、自然エネルギー利用や先進省エネ技術の採用を積極的に行った環境配慮に注力したプロジェクトとなっています。

「御殿山プロジェクト」では、外構植栽、屋上、壁面緑化により、開発全体面積の約40%を超える緑化を施しています。日本の原風景ともいえる「里山」を手本に、生体系に配慮した積水ハウス独自の「5本の樹」計画に基づき、既存樹の保存や在来種を中心とした約26,400本を超える植栽により、周辺地域の緑と一体となる緑のネットワークが創出されています。

※ 積水ハウス株式会社・株式会社日建設計・大成建設株式会社の共同受賞です



### ※「御殿山プロジェクト」概要

所 在: 東京都品川区北品川6丁目7-29

敷地面積: 約28,000㎡ (4ブロック合計面積)

建物概要: 竣工 2011年2月

- ・ガーデンシティ品川御殿山 : オフィスビル、地上9F・地下1F、延床面積 64,019㎡
- ・御殿山SHビル : オフィスビル、地上6F・地下2F、延床面積 19,999㎡
- ・プライムメゾン御殿山EAST : 賃貸マンション、地上3F・地下2F、総戸数 22戸
- ・プライムメゾン御殿山WEST : 賃貸マンション、地上3F・地下2F、総戸数 26戸
- ・御殿山の丘公園

## 【再開発プロジェクト Tomihisa Cross「Tokyoイゴコチ論争 オープンディスカッションによる住宅企画」】

(所在地:東京都新宿区 応募カテゴリー:個人・家庭・住人向けの活動・取り組み)

より豊かでイゴコチの良い暮らしを実現する住宅づくりを目指し、総戸数1229戸の再開発プロジェクトであった「Tomihisa Cross」のプランをベースにしてより住まい手の視点に立って議論するため、参加しやすく、波及性が高く、即時性のあるWEB上に企画会議室「Tokyoイゴコチ論争」を設置しました。

新築分譲住宅は建築確認取得前に消費者に対し、広告やその商品に関する意見を聞くことができません。また建築確認取得後は事業性の観点からすぐ工事が始まるため、アンケートを実施してから商品の検討や決定の作業を行うことは時間的制約を伴います。そんな中でも、住まい手の声を「リアルタイム」に建設中のプロジェクトに採用することで、事業者主体の従来の方法と異なる新しい住宅の作り方をデザインしたいという思いがありました。

そこで、工事工程を調整し、顧客への伝達タイミングを通常より遅らせる等のスケジュール調整を行いながら、誰でも参加できるオープンな環境で様々なアイデアを収集し、集まった声はコミュニティデザイン、景観設計、施設運営等、各領域の専門家を交えて随時議論。単に多数決ではなく細やかな意見も積極的に反映しました。

その結果、4万人の参加者と10万の声を基に、住宅に新しいアイデアを採り入れ、より有効に使いこなすことのできる「1,000のイゴコチ」アイデアをまとめ、ベースプランを磨き上げることができました。

※ 野村不動産株式会社・三井不動産レジデンシャル株式会社・積水ハウス株式会社・阪急不動産株式会社の共同受賞です

## Tokyoイゴコチ論争



Tomihisa Cross外観パース イゴコチ座談会の様子など